

教育講演 6

赤十字と国際保健医療協力

[教育講演 6]

赤十字と国際保健医療協力

喜多悦子

日本赤十字九州国際看護大学

中世ヨーロッパ最後の戦いのひとつ、イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノで、傷ついた兵士を敵味方なく救護したスイスの若き実業家 アンリ・デュナン(Jean Henry Dunant, 1820.5.8-1910.10.30)の発想を基に、世界の人道機関 赤十字国際委員会(International Committee of the Red Cross, ICRCまたは国際委員会)が創設されて以来1世紀半が過ぎた。

よく知られるように、ICRCはスイス ジュネーブに本部を置くが、同国政府の支配は一切なく、また、WHOやユニセフなど、国連に属する機関でもなく、きわめて特殊な地位立場と責任として能力をもつ世界最大の民間人道である。各国にある赤十字社(イスラム国にあっては赤新月社、イスラエルは赤菱社)は、いわば元祖ともいえるICRCの理念に賛同した各国が設立した、やはり民間組織で、政府支配下にはない。これら各国の赤十字組織は、それぞれの活動を連帯協力するため、1919年、英米仏伊と日本のイニシアティブで国際赤十字・赤新月社連盟(International Federation of Red Cross and Red Crescent Society, IFRC)を設置した。現在の連盟会長は、日本赤十字社近衛忠輝社長である。

ICRC、各国赤十字社・赤新月社そしてIFRCのすべてが国際赤十字活動の担い手であるが、そのための共通の考え方である「人道、公平、中立、独立、奉仕、単一、世界性」という赤十字の7原則は、アンリ・デュナンが作った言葉ではない。これは、1955年に発表された「The Red Cross Principle」というジャン・S・ピクテ氏(後に、アンリ・デュナン研究所長、またICRCの重鎮)の論文に始まるが、これを邦訳した日本赤十字社が、これを「国際赤十字」の公式原則として広く宣

言すべきと提案したことから設置された委員会を経て、この原則は、改めて赤十字機関のみならず、関連会議に参加する各国政府をふくむ国際社会においても、赤十字の憲章として認知されるようになった。では、これら赤十字は、実際の国際協力でどのような役割を果たしているのであろうか。

近年、自然災害は頻発するだけでなく規模が大型化している。地球温暖化の影響との指摘は、既に20年前から存在するが、確かに台風、ハリケーン、サイクロンに関しては該当するものの、他の自然災害については、むしろ、危険な地域に造成された住宅など、人為的な要因が多い。以下に災害の定義と種類を示したが、これら自然災害については、世界的にもっと多くの地域で素早く救援に当たっている援助組織は赤十字であろう。被災地、被災国のボランティアを動員し、さらに世界ネットワークを動員しての支援は他の追従を許さない。

表1 災害 Disasterとは

重大かつ急激な出来事で、人間とその環境に対して広範な破壊を生じ、その地域内の能力だけでは対処に非常な困難があり、時に外部援助を必要とする大規模な非常事態。S.W.A.Gunn

表2 災害の分類

自然災害：地震・火山爆発・津波・地すべり。

台風・ハリケーン・サイクロン・竜巻

洪水・豪雨・旱魃・酷暑・山火事

技術災害：化学工場/各施設事故・大規模交通事故。都市災害

Complex Humanitarian：地域武力紛争。人道介入。

Emergency：テロ

表3 人道援助と開発協力

人道援助 Humanitarian Assistance	長期開発協力
明確な定義はないが、通常、自然災害や戦争紛争などの被災者の生命や健康を保護・維持または回復し、元の正常な生活への復帰を支援する活動をいう。	開発途上国の、国や地域社会の開発発展と安定、また個々人の人間の安全保障のためにおこなう長期的な介入。ODA(Official Development Assistance。政府開発援助)とは、政府または政府機関が開発途上国に対して行う経済・社会の発展と福祉向上のために行う資金や技術供与

これら自然災害は、最大インパクトの後、速度の違いはあるが収束の方向にむかう一定のいわゆる災害サイクルに準じての救援のノウハウが確立しているともいえるが、災害冷戦構造終結後に増えた、いわゆるComplex Humanitarian Emergency(以下、CHE)と総称される地域武力紛争では、事態は流動的で対応は極めて複雑化する。さらに、非人道的あるいは国際通念にあわない国や権威に対する国際社会の武力介入が、結果として、CHE状態を生み出し、多様なテロが頻発する状況への対応は極めて困難になっている。アフガニスタン、イラクなどがその例であるが、赤十字の人道活動にすら大きな制約が生じている。自然災害における

救援とともに、貧困や不公正による低開発状態から抜け出せない開発途上国に対しては、長期的な開発協力が行われている。日本赤十字社においても、災害時の緊急人道援助、その復興回復時の支援とともに、低開発状態の地域へも保健活動を主体として開発支援が行われている。世界の赤十字の多様な救援の実態は、「赤十字の国際活動2010」に詳しい。日本赤十字社ホームページ→国際活動→資料で見る国際活動で全容を見ることができる。参照されたい。

http://www.jrc.or.jp/vcms_lf/kokusai100305_InternationalRedCross2010.pdf